

2025 年 9 月 24 日

報道関係各位

GMO リサーチ&AI 株式会社

**【定点調査 | AI トренд】業務での生成 AI 継続利用は拡大傾向へ
～業務利用目的のトップは「文章作成・翻訳」59.7%、5 月時点より 8.6 ポイントの大幅アップ～**

GMO インターネットグループで、インターネットリサーチ事業を展開する GMO リサーチ&AI 株式会社（代表取締役社長：荻田 剛大 以下、GMO リサーチ&AI 略称：GMO-R&AI）は、保有する国内モニターパネル^{（※1）}「JAPAN Cloud Panel^{ジャパン クラウド パネル}」のモニター1,108 人を対象に、「AI トрендに関する自主調査」を実施しました。本調査は、AI に対する理解を深め、より多くの人々が AI を活用し、社会の発展に寄与することを目的としたものです。2023 年 11 月に開始し、今回で 8 回目の実施となります^{（※2）}。前回 2025 年 5 月実施の調査と同様、対象者を会社員に限定して実施しています。

■ 調査サマリー

- ・業務において生成 AI を継続的に利用している人は全体の 28.4%、5 月時点より 3.0 ポイント増加
- ・週に数回以上利用するヘビーユーザー層が拡大
- ・業務利用目的のトップは「文章作成・翻訳」59.7%、5 月時点より 8.6 ポイントの大幅な増加
- ・業務で利用または試用したことのある生成 AI ツールのトップは「ChatGPT（OpenAI）」72.9%
- ・業務利用は文章生成中心、画像生成 AI などの活用は依然として限定的
- ・勤務先の業務利用に対する方針は活用を容認・推奨へシフトする動きが見られるが、明確な方針を示していない企業が依然多数
- ・生成 AI に関する「社内研修を受けた」と回答した人は 32.5%、5 月時点より 5.2 ポイント増加



GMO RESEARCH & AI

■ 調査概要

- ・調査テーマ：AI トрендに関する自主調査
- ・調査地域：日本国内
- ・回答者数：1,108 名
- ・調査対象：20 歳～69 歳の男女 会社員
- ・調査期間：2025 年 8 月 21 日
- ・調査方法：オンライン調査
- ・調査機関：GMO リサーチ&AI 株式会社

(※1) パネルとは、アンケート協力の承諾を得ている生活者の集合体。

- (※2) 2023 年 11 月 1 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/8724/>
 2024 年 2 月 2 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/8882/>
 2024 年 5 月 3 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/9016/>
 2024 年 8 月 4 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/9148/>
 2024 年 11 月 5 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/9289/>
 2025 年 2 月 6 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/9468/>
 2025 年 5 月 7 回目調査 URL：<https://group.gmo/news/article/9563/>

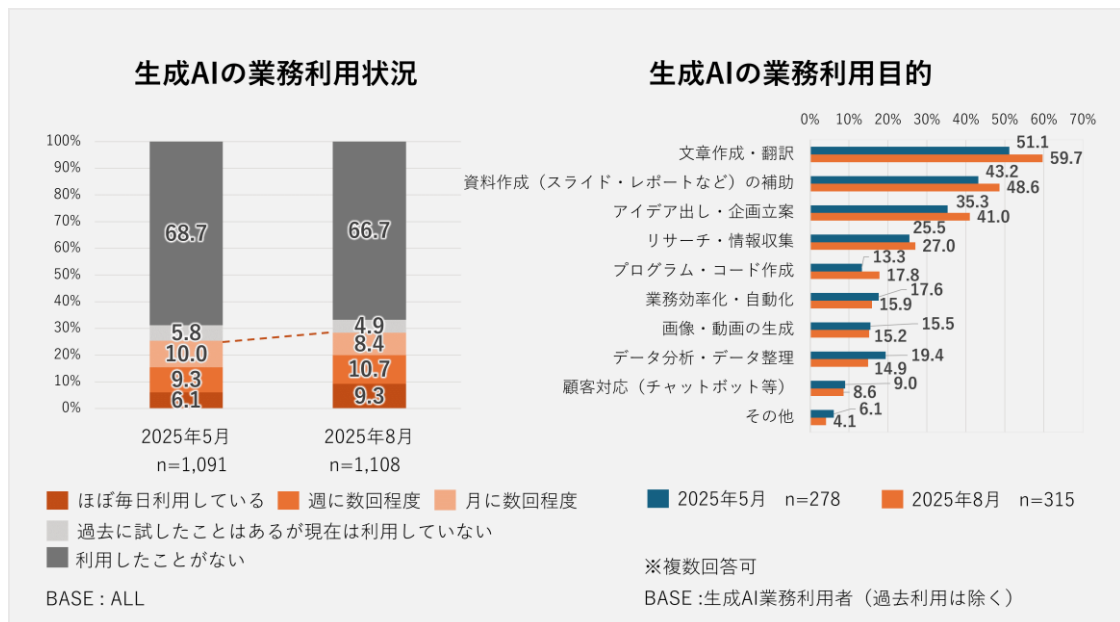
【調査結果】

■生成 AI の業務利用状況と利用目的（2025 年 5 月～2025 年 8 月）

- ・業務において生成 AI を継続的に利用している人は全体の 28.4%、5 月時点より 3.0 ポイント増加
- ・週に数回以上利用するヘビーユーザー層が拡大
- ・業務利用目的のトップは「文章作成・翻訳」59.7%、5 月時点より 8.6 ポイントの大幅な増加

生成 AI の業務利用状況の設問では、「ほぼ毎日利用している」「週に数回程度」「月に数回程度」といった継続的な利用者の割合が 25.4%から 28.4%へと 3.0 ポイント増加しました。「ほぼ毎日利用している」は 6.1%から 9.3%へと 3.2 ポイント増加し、「週に数回程度」も 9.3%から 10.7%へと 1.4 ポイントの微増を示しており、ヘビーユーザーが拡大している傾向がみられます。一方で、「月に数回程度」と答えたライトユーザー層は 10.0%から 8.4%へと 1.6 ポイント微減しており、一部のユーザーがより頻繁な利用へと移行した可能性が考えられます。

業務利用目的については、最も多かったのが「文章作成・翻訳」59.7%で、前回調査から 8.6 ポイントと大幅に増加しました。加えて「資料作成の補助」や「アイデア出し・企画立案」も 5 ポイント以上の増加が見られ、アウトプット生成や創造的支援を目的とした利用が顕著に伸びていることがわかります。また、「プログラム・コード作成」（4.5 ポイント増）、「リサーチ・情報収集」（1.5 ポイント増）など、専門的・実務的な用途での活用も増加しており、生成 AI の応用範囲が拡大している兆しが見取れます。

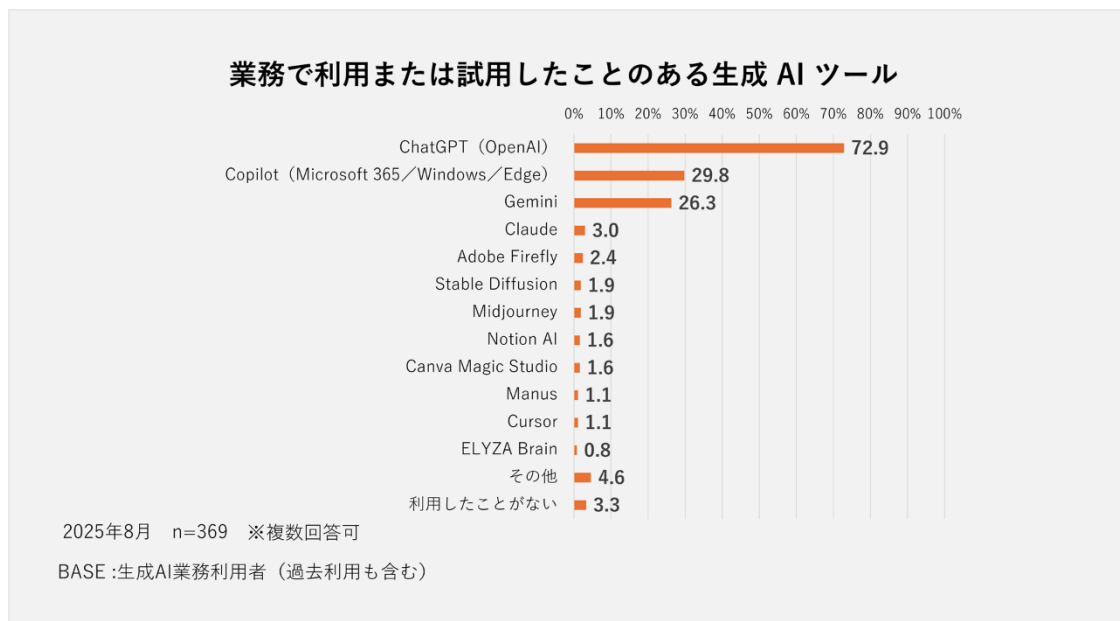


■ 業務で利用または試用したことのある生成 AI ツール（2025 年 8 月）

- ・ 業務で利用または試用したことのある生成 AI ツールのトップは「ChatGPT（OpenAI）」72.9%
- ・ 業務利用は文章生成中心、画像生成 AI などの活用は依然として限定的

今回の調査^(※3)では、業務で利用または試用したことのある生成 AI ツールとして「ChatGPT（OpenAI）」が 72.9%と圧倒的多数を占めました。業務現場に深く浸透していることがわかります。次いで「Copilot（Microsoft 365／Windows／Edge）」（29.8%）、「Gemini（Google）」（26.3%）といった主要プラットフォーム連携型のツールが利用されています。一方で、画像生成 AI などの活用は依然として限定的です。利用目的の調査結果と同様に、生成 AI の業務利用は文章生成を中心に広がっている傾向がうかがえます。

（※3）選択肢は、検索エンジンや SNS 等の複数ソースで共通して頻出している一般的な単語やフレーズと自由回答を設定し、複数回答可能としています。



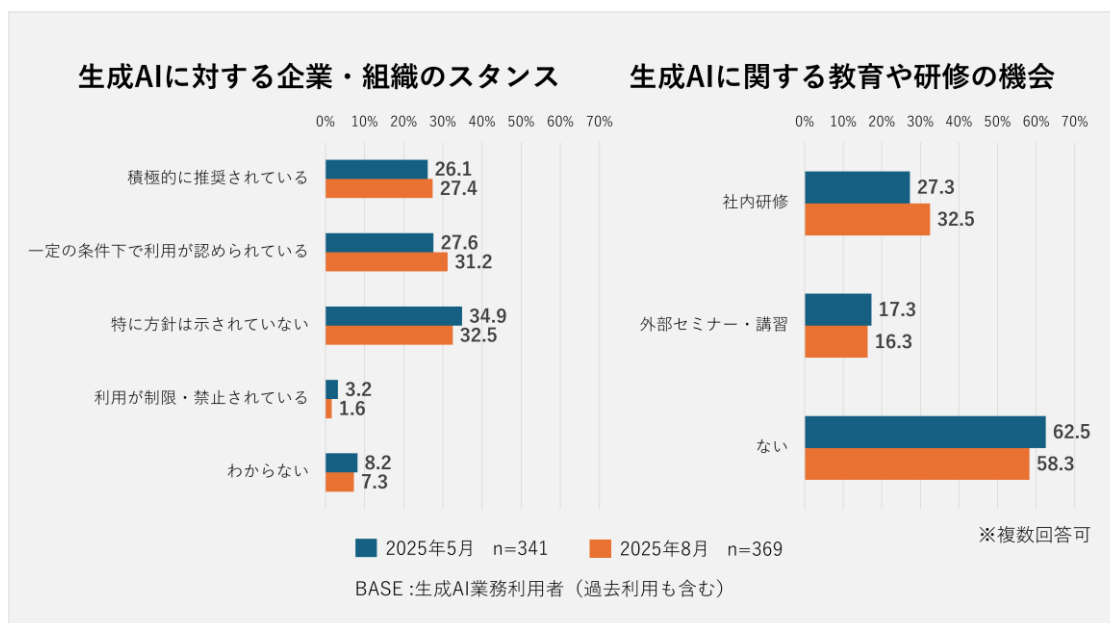
■ 生成 AI に対する企業・組織の方針、教育・研修機会（2025 年 5 月～2025 年 8 月）

・勤務先の業務利用に対する方針は活用を容認・推奨へシフトする動きがみられるが、明確な方針を示していない企業が依然多数

・生成 AI に関する「社内研修を受けた」と回答した人は 32.5%、5 月時点より 5.2 ポイント上昇

生成 AI の業務利用に対する勤務先の方針についての調査では、「一定の条件下で利用が認められている」が 27.6%から 31.2%へと 3.6 ポイント増加しました。また、「積極的に推奨されている」という回答も 26.1%から 27.4%へと 1.3 ポイント微増しており、企業側が生成 AI の活用を容認・推奨へシフトする動きがみられます。一方で、「特に方針は示されていない」と回答した割合は 34.9%から 32.5%へと 2.4 ポイント微減したものの、依然として最も多い回答となっており、明確な方針を示していない企業がまだ多い現状も浮き彫りとなりました。

生成 AI の教育・研修機会については、「社内研修を受けた」と回答した人が 27.3%から 32.5%へと 5.2 ポイント増加し、企業内での生成 AI に関する教育・啓発活動が進みつつある傾向が明らかになりました。生成 AI の業務活用が広がる中で、従業員への知識提供や活用スキル向上を目的とした社内研修の実施が徐々に浸透していると考えられます。一方で、「外部セミナー・講習を受けた」の割合はやや減少（1.0 ポイント減）し、「受けたことがない」とする回答も 62.5%から 58.3%へと 4.2 ポイント減少しました。非受講者の割合は減少傾向にあるものの、依然として 6 割近くが研修未経験であり、学習機会の提供にはまだ課題が残っていることがうかがえます。



【総括】

生成 AI の業務利用の状況については、継続的に利用している人が増加しており、特に週に数回以上利用するヘビーユーザー層の拡大が確認されました。利用目的では「文章作成・翻訳」が顕著に伸びたほか、「資料作成」「アイデア出し」「プログラム作成」など多様な領域での活用も拡大しており、応用範囲が広がりがつつある傾向が見受けられます。

勤務先の生成 AI 活用に対する方針も容認・推奨へとシフトする動きが見られ、社内研修を受けた人が増加するなど、活用環境の整備が進みつつあることがうかがえます。

一方で、依然として多くの企業が明確な方針を示していない点や、研修未受講者が 6 割近く存在する点は今後の課題といえます。

【GMO リサーチ&AI について】

GMO リサーチ&AI は「想いを、世界に」をフィロソフィーに掲げ、企業と生活者の関係の再構築を実現する、新しいマーケティング・ソリューション・プラットフォームを普及させる事業を展開しています。

世界 130 以上^(※4) の国と地域で消費者にインターネットリサーチが可能なパネルネットワークと AI 技術を活用して、日本のみならず世界各国の企業から調査依頼を受けています。

(※4) 2025 年 8 月時点 提携パネルを含む

以上

【報道関係お問い合わせ先】

- GMO リサーチ&AI 株式会社
社長室 山本
TEL : 03-5962-0037 (代表)
E-mail : ir@gmo-research.ai

【サービスに関するお問い合わせ先】

- GMO リサーチ&AI 株式会社
国内営業部 高橋
TEL : 03-5459-5565
E-mail : info@gmo-research.ai

- GMO インターネットグループ株式会社
グループ広報部 PR チーム 小犬丸
TEL : 03-5456-2695
お問い合わせ : <https://group.gmo/contact/press-inquiries/>

【GMO リサーチ&AI 株式会社】(URL : <https://gmo-research.ai/>)

会 社 名	GMO リサーチ&AI 株式会社 (東証グロース市場 証券コード : 3695)
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役社長 荻田 剛大
事 業 内 容	インターネットリサーチ事業
資 本 金	2 億 9,903 万円

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://group.gmo/>)

会 社 名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事 業 内 容	持株会社 (グループ経営機能) ■ グループの事業内容 インターネットインフラ事業 インターネットセキュリティ事業 インターネット広告・メディア事業 インターネット金融事業 暗号資産事業
資 本 金	50 億円

Copyright (C) 2025 GMO Research & AI, Inc. All Rights Reserved.